

矢作川流域圏懇談会通信

R4 流域連携 vol. 1



発行日：令和4年9月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第14回“いい川”・“いい川づくり”ワークショップに参加しました！

本ワークショップでは、3日間にわたる地域・世代・立場を越えた出会い・交流をとおして、将来の日本の川や、川と地域の関係のあり方等について、議論を交し合いました。各団体間で課題点や解決案、「いい川」とは何かについて、意見交換を行いました。

矢作川流域圏懇談会は、当日の発表およびテーブル選考でのグループワークの参加、運営の支援等を行いました。

日程：令和4年9月2日（金）～9月4日（日）

場所：新河岸川流域、国立オリンピック記念青少年総合センター



◆イベントの経緯と内容および矢作川流域圏懇談会の参加について

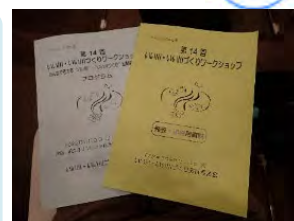
1. 経緯とイベントの内容

■経緯（HPより抜粋）

私たちがめざす川や水辺はどんな姿なのか、私たちにとって“いい川・水辺”とはどんなことなのか、各団体が事例や取り組み、思いを持ち寄り、発表、議論することにより、少しでも“いい川・いい川づくり”のビジョン、イメージの共有につながれば、やがては日本中に個性豊かな愛着の持てる川や水辺が出現するとの思いから開催されました。

■主なイベント内容

- ◇エクスカッション（新河岸川流域の水と緑を訪ねる3コース、参加自由、事前申込制）
- ◇全体発表会（会場およびオンラインでの全応募26団体が1団体3分で活動内容等を発表する）
- ◇テーブル選考（一次選考。6グループに分かれ、選考員を中心に議論を行い、1団体を決定する）
- ◇復活選考（ポスターセッション型式の交流とともに、新たな視点から6件を選考する）
- ◇全体選考（二次選考。合計11団体の中から、議論の上、選考員の投票により選定する）
- ◇公開討論（最終選考。別の選考員がさらに議論を行い、入選団体の中からグランプリを決定する）
- ◇表彰式（グランプリ、入賞、入選、“いい川”技術賞、森清和賞、広松伝賞を表彰する）



2. 9月2日（金）エクスカッションについて

新河岸川流域の水と緑を訪ねる3コース

■Aコース：平成の名水（落合川と南沢湧水群）と多自然川づくり

- ◇コース概要 西武池袋線「東久留米駅」～落合川と平成の名水百選「南沢湧水群」～自由学園（立野川が流れる自然豊かな南沢キャンパス）～西武池袋線「ひばりヶ丘駅」

◇ご案内 菅谷輝美さん（新河岸川水系水環境連絡会）

吉川慎平さん・小田幸子さん（自由学園 最高学部准教授、最高学部の皆さん）

■Bコース：トトロの森（トラスト地）と川づくり【里山・里川ウォーキング】

- ◇コース概要 トトロの森トラスト地（37号地）～八国山、北山公園の再生～北川の川づくり～淵の森（宮崎駿監督の寄付による緑地保全地）～トトロの森（17号地）～柳瀬川の天然河岸（バープエ）～柳瀬川・空堀川合流点の川づくり～西武池袋線「清瀬駅」

◇ご案内 トトロのふるさと基金・北川かっぱの会・川づくり清瀬の会ほか

■Cコース：いい川・いい川づくりWSグランプリ「黒目川」と斜面林・湧水コース

- ◇コース概要 東武東上線「朝霞台駅」～浜崎黒目橋より黒目川沿い徒歩～新高橋（川辺の水族館・水槽展示）～溝沼黒目橋（折り返し）～朝霞市博物館or岡緑地の湧水群～東武東上線「朝霞台駅」

◇ご案内 黒目川に親しむ会、あさか環境市民会議ほか

※写真はAコース（左3枚）・Bコース（右3枚）より



3. 9月3日（土）全体発表会への参加団体の紹介（抜粋）



全体発表・グループワークには26団体（会場21、オンライン5）が参加しました！

■矢作川流域圏懇談会

～流域はひとつ、運命共同体～

“いい川づくり”のために、川だけでなく、流域全体（山や海含め）で活動している点や、近年の新型コロナウイルスを逆手に取った取組み（オンラインでの公開講座の開催）、市民部会では農業や工業の団体との関係の構築を課題としていることについて発表しました。

■四ツ谷用水案内人 ☆グランプリに受賞

～町の礎を築き潤しそして都市に消えた「川」を取り戻すには...?～

四ツ谷用水は殆どが暗渠化されており、水に触れる事すら不可能なため、水棲生物の採取や観察、川下りや清掃などの活動ができないのが現状です。しかしながら、現地案内や座学、動画時配信等を行い、人々に興味関心を持ってもらうため日々活動をしています。

■リバーネット21ながぬま ☆グランプリに受賞

～子供水防団の活動 自分の身は自分で守る！～

土砂災害等が発生した際など、「いざ」という時の備えが大切であると考え、子供を対象に水防体験活動を行っている団体です。北海道から全国へ広げるために他県と合同訓練も実施しています。

■22世紀奈佐の浜プロジェクト

～奈佐の浜に、伊勢湾に、豊かな海を取り戻そう ～流域を駆け巡る若者たち～

3県（愛知県、三重県、岐阜県）の学生が協力して、奈佐の浜の清掃活動等を実施しています。子供から大人まで幅広い年代に参加してもらい、100年後を見据えた多世代間交流にも努めています。

■公益財団法人四万十川財団

～四万十川大人塾 川漁にとことん挑戦～

失われたら二度と戻らない伝統文化を後世に伝えるために活動をしています。“とことん”挑戦ということで、今年度は鰻の延縄を3回、鮎の綱投げを4回実施し、川漁の継承に取り組んでいます。



全体発表会で、矢作川流域圏風呂敷（赤色立体地図）を紹介しました



テーブル選考では、他団体とともに議論を交わしました



テーブル選考の選外から新たな視点で復活選考が行われました

4. 9月4日（日）全体選考や公開討論会での議論について



課題“世代交代”・“巻き込み方法”・“ごみ問題”に対する意見交換

■世代交代について

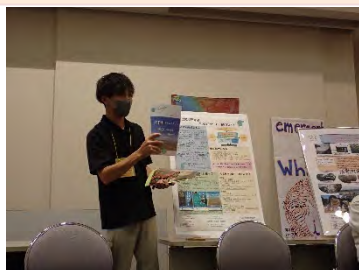
- 世代交代という言葉が良くないのではないか。世代交代に代わる言葉があるのではないか。（堂本）
- 継承を継続的にやりはじめるような仕掛けができていれば、世代はほっとけば代わっていくのではないかと。（和田）
- 流れを途切れさせないくらいの繋がり方を意識している。細い糸でも繋がってればよいのではないかと。（高田）
- “多世代”で一緒に活動することで、本当に大事なものは残っていく。守るべきものは何かを把握する。（清水）
- 世代によって面白い・楽しいは違う。色んな世代が切磋琢磨して、結果的に繋がっていかないと。（聴講者）
- 今ある活動をどう繋げるかにフォーカスされているが、川の課題を解決するために活動を続けていくのが大事。（聴講者）
- いい川づくりには人間関係づくりが大事であり、人と人との関係がよければ世代は繋がっていく。（聴講者）

■巻き込み方法について

- 未経験の人でも入りやすいように、入口のハードルを低くすることが大事。（瀧）
- SNSやアプリ、絵本、BBQなど巻き込み方法は多様化している。（瀧）
- SNSであれば、川の良さが伝わる写真や動画を多く使うことで興味をもつことができる。（坂本）

■ごみ問題について

- 何のためにゴミ拾いを行うのかを子供たちにも理解してもらうことが大事。子供たちにとって拾う楽しみがあると良い。（聴講者）
- 拾ったゴミを数値化（データ化）して、社会に訴えることで行政や市民一緒になって社会を変えたい。（聴講者）
- 川にゴミがあるということは川で遊んでくれていることの証であり、みんなが川で楽しく遊び、川を好き（大事な存在）になってもらうことでゴミを捨てる人が減るのではないかと。（聴講者）



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 山路、建設専門官 宮本、技官 松田
TEL 0532(48)8107

*矢作川に関する情報は、国土交通省豊橋河川事務所調査課（cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp）までお送りください。

